

道東地区教会連合会機関誌



# 道東 38 こ う ほ う 光 報



'DŌTŌUKŌHŌ', Newsletter of KONKOUKYOU East Hokkaido reg., No. 38 Apr., 2017

## 巻頭言 「問うことなくして成長進歩なし」

帯広教会長 田中東作

私は、少なからず世の多くの人々が我情我欲にとらわれてか、目先の利益のみ固執し、その合理化と利便性を追求する生き方とそのあり相に不安とあせりを感じ心痛むところです。

と申しながらも、生神金光大神取次の道のご縁につながる身として唯々一筋に「神人の道」の実現に向けて日々神み教えを求め学び行じ生活を営み、世話になるすべてに礼をいう心を育てつつ、神助かり人立ち行くことのお役にお願い頂けることを至福の喜びといたし、その成就を一心に祈りつつづけています。

しかし人はとかく生活を営むあり方に何事も結果責任を負うと口々に言いながらも、何事も、これでよしとして自己満足する人、これしか仕方がなしとし、正当化する人、また世間体や世俗の常識や慣習そして人の噂等に流されこだわる人、更には気ままわがままな身勝手な気分と我欲にまみれ、汚れた心で生活を営む人達。実意に生きることに無頓着・無関心な人々が如何に多いかと知らされる今日この頃であります。

このように、その日その日を気分次第で暮らしを進める人々は、生きるに衣・食・住がたとえ何一つ不自由なく

不足なく満ち足りたとしても必ず「もっと」「もっと」と豊かに便利に大きくしたいという拡張志向に囚われ、今に生きられていることのも有り難さや嬉しさ楽しさの心消えて心落ち着かず更なる欲求不満というストレスたまりイライラした心となり、その不安と不快を乗り越えるためにこれまた我知らずに無意識的本能的に行動いたし今には不必要な衝動買いに走り、また自分の趣味だからといって自分だけの楽しみに身を任せ競馬、パチンコ等のギャンブルに借金をしてまで身を沈めその結果、家庭崩壊と人間関係の断絶となり悲しき状態を生ん

でしまうのではないでしょう  
か。

○ このような我情我欲に囚われ、その日暮らしの気分での生活を営まざるを得ない人々の生き方の根底には共通して心と情には「何事にもこれで済んだとは思いません」という謙虚な心、また相手の身になって相手を思いやり力をだして協力しあい相共に生きようとする心。更には事に当たってご無礼お粗末な事があってもそれを許す寛容な心と何一つ世話にならねばなしえざる凡夫の身の自覚と世話になる一つ一つに感謝とお礼申す心がどこかに忘れ、置き去りになった結果ではないかと考えさせられるのであります。

○ これらの難渋に満ちた生

活から末々かけて神喜び人立ち行き繁盛いたし、安心と至福の喜びとなる生活、生き方身の処し方になるためには、私は日々油断することなく怠ることなく生活を営む中に起こり来る全ての出来事に対して自分の価値観をもって評価し、善し悪しを判断しその是非を問うことが常とは思うけれど、私は信奉者としては、その様になつたのは何故か、そう思わざるをえないのは何故か、それは何に基づいてその様に感ずるのかを問い続け考え続けるのかを問い続け考え続けること、それを繰り返すこと、それによって、その先に新しい生き方身の処し方が見え、一段とわが心の改まりが深められ高められて、より真実な生き方が明らかになると思

に日に神のみ恵みとみ働き、人、物、すべてのお世話になつて生きられるわが身の処し方生き方を何に基づいて生きていくべきか生きるべきかを一心と定めて全ての物を無駄にせず粗末にせず謙虚な心と身丈にあつての慎ましき生活に取り組み、我欲にまみれて難儀する人を助け導くご用のお役に立つ身となるべく、生活を営む中で起こる一つ一つを真摯に受け止め、慌てず焦らず迷わずに辛抱強く何に基づいて生きるかを問い続け求め続けて初めて世話になるすべてに感謝お礼する心が育てられ神人あいよかけよで、神喜び人立ち行く新しき世界が生みだされるものと信念いたすものです。

この心忘れることなく見失うことなくご用を進めて

不動の信心を体してまいりたいと祈念するところであります。ありがとうございます。  
(心身共に枯れし九一才の教会長)

連合会教会・平成29年度 大祭日程

	春	秋
釧路	5月28日	10月22日
北見	5月3日	11月3日
十勝	4月16日	11月19日
帯広	4月23日	11月5日
網走	5月21日	10月29日
滝上	4月30日	10月15日

教会掲示板

教会からあれこれ

網走教会

網走市北四条西一丁目六番地  
TEL ○一五二一四三三九五四  
FAX ○一五二一四三三九五四

滝上教会

紋別郡滝上町元町士別通り

3月は、おかげの中に大変忙しく、御用にお使いいただき、まことに有り難いことでした。そうした忙しいさの中に、心から感動することがありました。

3月1日、若いときからご信心を進めておられたFさん(95歳)がご帰幽になりました。通常、お葬儀の準備を進める中で、ご遺族から色々故人のことを聞いて、そのご一生を讃える祭詞を書き上げます。この度

もご遺族に色々とお話しを聞こうとしたところ、ご子息夫妻がお参りになって、金庫からこの様なものが出てきましたと一通のお手紙を出されました。それは、私へ宛てた手紙でした。

裏面には十六年前の日付とFさんのお名前が、しっかりと整った字でしたためられていました。その場中をさっと確認すると、ご自分の一生を振り返ってのことが書かれていて、最後に「私の今日までの事を書きました。菊川先生、よろしく願ひします。」と結ばれていたんです。

私はこのお手紙を手に取りながら、心の底から感動しました。私がこの網走教会を後継したのがちょうど二十年前、教会長にお取り立て頂いたのが十九年前です。です

ので、Fさんがこのお手紙をしたためられたのは、私が教会長にお取り立ていただき、まだ三年目のことになりました。遠く熊本から来た若干30歳の教師、教会長としてちゃんとやっていくのかと値踏みをされていても不思議ではない頃のことです。Fさんはご自分の最後の時を思い、葬儀の事を人生最後の祭典を私に託し、手紙をしたため金庫にしまっておられたんです。こんな有り難くもつたいないことはありません。身が震えるほどの感動を覚ええました。

また、3月19日には、信奉者子弟のK君が、金光教で結婚式を挙げてくれました。私としては初めての結婚式祭主。天地の親神様に誓いを述べる新夫婦の姿は大変尊い

ものでした。披露宴においても祝辞を頼まれ、これも初めてのこと。思えばこの数ヶ月、ずっと緊張していたようなことでした。

その祝辞のなかで、Kくんがとても辛い時に御取次を願ひ出て、その事柄を乗り越えてくれたことに少し触れました。すると、聞いていたK君もその時の事を改めて思い出し、涙が出そうになったと言ってくれました。そして何よりも有り難かったのは、後日、二人揃ってのお礼参拝の時に、再度、当時の話となり、「あの時の先生の言葉が、今でも自分の支えとなつて、辛い時には思い出して乗り切つてます」と言ってくれたことです。

それは御結界の持つ働きといひましようか、神様が

私の口を通してK君にみ教え下さったことで、決して私の言葉ということでは無いのですが、教師としてこんな嬉しいことはありませんでした。

○

さらにもう一つ、それはある日の御取次でのことです。いつもよくお参りになられて、その日もお参りになられて、御結界に進まれ、御取次を願われました。色々

とご家族のことから、体調のことなどお届けなさって、私もそれらについて色々とお話しさせていただきました。するとその方が最後に、「やっぱり前にも言いましたけど、先生が先生で良かったとつくづく思います。他の先生であればこの様に話してきたかわかりません」と仰ったんです。

いやいや、他の先生であれば、もっといい御取次をなさるかもしれないし、そんなたいそうな私ではないとは思いつつも、ご信者さんからその様に言ってもらえるなんて、本当に教師冥利に尽きるのだと思います、これまた大変嬉しくてなりませんでした。今度はご信者さんの口を通して、神様からの励ましの言葉を頂戴したようなことです。

○

こうして、三つの有り難いことがあったなかで、心底思わされるのは、七年前の離婚で、この網走を捨てて逃げ出さずに良かったということ。教師としての自信も、男としての自信も、また親としての自信も、すべてを失った気持ちになってしまい、生きることさえも、もう無理だ

と思うことが幾度となくありました。

もし、この時に逃げ出して江田教会に帰っていたらと思うとゾツとします。Fさんの手紙はどうなっていたでしょう、K君は、先生は自分にあんな風についておきながら逃げ出すのか！となり、先生が先生で良かったと言ってくれるご信者さんもなかつたでしょう。そして今頃は、江田教会の甥っ子に、

厄介おじじ、厄介おじじと言われながらの肩身の狭い暮らしをしていたかもしれせん。

そのことを思う時に、本当に、あの時逃げ出さずに、時には涙を流し、時には歯を食いしばりながらでも、神様への教師としての誓い、金光様からのご任命を信じ、すがりつき離れずに今日を迎えら

れて本当に良かったと、心から安堵の胸をなで下ろすのでした。  
(菊川)

### 帯広教会

帯広市東四条南八丁目四番地  
TEL 〇一五五―三三六八三五  
FAX 〇一五五―三三六八三五

4月初旬、山積みになつた雪がなくなり、雪解けと共に新しい草木のいのちが育つてまいりました。教会の境内にも例年とおりの福寿草、クロッカス、アイヌネギ(ぎょうじゃんにく)の芽が始めました。天地のはたらき、恵みを感じさせていただいております。

平成29年1月14日、今年一番寒い朝を迎えました。

帯広氷点下22度、芽室氷点下27度、陸別28度、駒場28度、占冠29度という記録的な寒さであり、それが3日間続

きました。帯広の1月は毎  
日冬日で冷蔵庫より寒い日  
が続いています。数年ぶり  
の寒波大雪が襲来しました。

寒波が続くとやはり教会  
の小さい車は寒すぎて朝は  
動かず、教会全体が寒いで  
す。その中で、水道管が凍  
らないように防寒対策を施  
していますが、水道管を凍  
結させてしまいました。凍  
らした日はたまたま日曜日  
ということもあり営業して  
いる会社も少なく、また多  
くの家庭でも水道管を凍ら  
しているようで、電話も混  
雑し繋がらなく、ようやく  
昼過ぎに来ていただいた次  
第です。修理代金もそれな  
り、休日費用ということであ  
り、休日費用というもので  
少し割り増しでありました。  
また3日目にも同じような  
ことになり、同じように修  
理して頂きました。このと

きには代金はそれなりの金  
額でした。そこで、温暖化な  
のになぜ冬このように寒い  
のか？

ある研究者たちの調査に  
より、氷の量が減少すること  
で、シベリア沿岸部を移動  
する低気圧のルートに変化  
が発生するという結果が明  
らかになりました。通常は  
東に移動するはずのシベリ  
ア低気圧が、氷が少ない年ほ  
ど、北よりのルートに変更さ  
れる傾向が強いということ  
が分かったのです。このルー  
トの変化によって、より強い  
寒気が南方向、つまり日本方  
面にも押し出しされている  
というのです。温暖化が進行  
することで日本の冬が寒く  
なるもう一つの力ギは、海水  
の持つ断熱効果に関係しま  
す。海水は太陽から吸収した  
熱を反射効果によって遮断

したり、逆に地球の持つてい  
る熱を溜め込む働きがあり  
ます。つまり、地球の温度を  
コントロールしてくれる「断  
熱材」のような働きを持つて  
いるのです。しかし現在は、  
温暖化によって海水の量が  
年々減少傾向にあります。こ  
れによって、地球はせっかく  
吸収した熱をキープするこ  
とができず、どんどん大気へ  
放出してしまうのです。この  
ような現象が、世界各地の冬  
の寒さに拍車をかけている  
可能性もあります。このよう  
に気象学的には説明されて  
います。信仰的に考えます  
と、3月春分の日を迎え、日  
中の日差しが確実に暖かさ  
を感じさせます。そして広大  
な雪を溶かし、大地では新芽  
のいのちの誕生の準備を進  
めています。

人間は生まれて死ぬまで

の間、食物や水、日の陽気  
など、生存に必要な一切を  
神から与えられ、親神様の  
世話になって生きています。  
金光大神は、生命を育む太  
陽、大地、水をはじめ、万  
物一切の恩を忘れないよう  
にすることが、信心する者  
にとつて大切であると教え  
た。

私達の生活を顧みて改め  
て、世話になるすべてに礼  
をいう心をもって、神のお  
かげにめざまめ、天地の大  
恩に感謝して日々おかげを  
蒙つてまいりたいと存じま  
す。

今年の桜は早いようです。  
大祭時には境内の桜を見る  
ことができれば良いと思ひ  
ます。

(田中)

## 北見教会

北見市寿町三丁目五番一号  
 TEL 〇一五七二四一七四七四  
 FAX 〇一五七二四一七四七四

ゆっくりと季節は冬から春へと移ろい、雪解けが進んだ庭には小さな草の芽が顔をのぞかせています。日差しの暖かさに誘われて窓の外を眺めると、入学式を待ちきれないのかピンクの真新しいランドセルを背にした女の子が飛び跳ねながら走って行きます。

日常にこれといった変化があるわけではないのだけれど、小さな子供の弾む心に何かしら新しいことが始まるような期待感を抱く四月でしたが、残念ながら期待外れの出来事が起こりました。洗濯機が壊れたのです。色々試してみてもいつものように動くはずが動か

ない、汗まみれの運動着や部屋着などを抱えながら暫し呆然、手洗いする労力を思うと洗濯機の有り難さが身にしみました。家電の故障で困るものは冷蔵庫と洗濯機だと今更ながら納得した次第です。

早速K電機へ駆けつけましたが、配達できるのは十日後と言われコインランドリーへ行く手間と料金を思い落ち込みました。しかしそこでわずかな期待を抱きながらY電気へ行ってみたところ二日後にお届けできるといわれまずは一安心、ドタバタ慌てふためいた一日でした。

そして二日後の夜真新しい洗濯機が届き、二十五年間毎日のように動いてくれた働き者の洗濯機は引き取られていきました。業者の人

が古い洗濯機を外すときにスイッチを入れるとなぜかちゃんと動き出し、最後の力をふり絞るようにぶるぶると体を震わせながら排水したのですが、まるできれいになってお別れしますねといっているようで、なんだか別れが辛くなり思わずお世話になりましたと声に出して業者の人に少し驚かれました。

洗濯機を通して、別れと新しい出会い、そして便利さに慣れることの怖さを教えられた四月でした。

(矢代)

## 釧路教会

釧路市宮本一丁目五番二二号  
 TEL 〇一五四四一四一三三五一  
 FAX 〇一五四四一四一三三六一

シリアの「イスラム国・IS」の活動が劣勢になってきて、そのニュースが少な

くなってきたら、北朝鮮によるミサイル発射のニュースがしばらく続いていたが、シリアのアサド政権・シリア軍が化学兵器を使用したことから、米トランプ政権・米軍が「一線を越えた」として、シリア中部のシユアイラート空軍基地に向けてミサイルを発射、一気に危機感が高まっている。

この迫り来る危機に比べれば、その比ではないかも知れぬが、人類にとつて危険な生物は何かを問うコラムが3月9日の東京新聞・筆洗にあつた。この時には、上記の事態を予想だにしていなかったのだろう、ライオンでもトラでも毒蛇でもサメでもない。人間自身の危険度は2位で、人間より怖いのは「蚊」という。マラリア、黄熱病、デング熱など危険な感染症を媒介す

る。この「吸血鬼」の被害は、年間75万人の命を奪っているという。

大日本除虫菊（キンチョウ）が棒状の線香を発売したのが1890年で、それ以前は蚊帳と植物を燃やした煙で追い払う「蚊やり火」だったという。この蚊やり火に誰かが除虫菊を入れて、創業者の上山英一郎さんが「ハッと気付いたのだろうか」創始者になった。今度は、妻・ゆきさんが、蛇のとぐろを見てひらめき、渦巻き型に改良されたようだ。

この、蚊取り線香を日本化学会は、貴重な化学資料を「化学遺産」に、蚊取り線香に関連する工場や製造装置を認定したという。

人類の生命の永遠の働きに、天地が弛みない歩みを進めている。

人類の安全な生活の一つに、化学も科学も医学も数学も地道な歩みを進めている。

人類の潤いの生活の一つに、芸術や音楽や文学や娯楽や色々の歩みを進めている。

人類の平和な生活続くよう、金光教信奉者は教会に参詣し世界の平和を願っている。

（江郷）

### 十勝教会

池田町旭町一丁目九番地二二  
TEL 〇一五五七一一三三三  
FAX 〇一五五七一一四二二

長女がまだ一歳の春のことです。生後二ヶ月ぐらいの子犬が一匹、広前の玄関でうずくまっていました。首輪はしておらず、近所の人の話だと数日前から町内をうろついていたようで、捨て犬らしいとのこと、広前の玄関にいたというのも「何かの縁」と

いうことで、教会で飼うことになりました。以来、「わんわん」と命名された彼女は（女の子です）我が家の次女として扶養家族に名を連ね、長女とおしめを奪い合い、その後生まれた妹、弟たち（人間ですよ）とともに成長し、十四年間、健康増進のため毎日家族の誰かを散歩に連れ出す係、生ゴミ削減のための魚のアラ処理係など犬としての役割を果たしてきました（番犬としてはからっきしでしたが）。そんな「わんわん」が老衰で亡くなって今年の冬で三年になります。

最近「ペット・ロス」という言葉を聞きます。長年かわいがってきたペットが亡くなり、人によつては心身のバランスを崩してしまうこと

もあるそうです。幸い我が家ではそのようなことはありません。

せんでしたが、家族の会話の中には「こういうときにわんわん。がいたらこうしていた」、TVに犬が映し出されると「わんわん。みたいな犬が映っている」など、ことあるごとに話題になり、誰が言うともなく「我が家は明るいペット・ロスだ」という状態だったようです。

子供たちは（というより大人たちも）「新しい犬を飼いたい」という願いはありました。が、こういうものは全て「ご縁」であり、「ご時節」があつて、犬にも人にもいのように神様が調整してくれるのだから「それまで待とう」ということにしました。

一年後、「子犬が生まれたら貰えそうだ」という話があり、受け入れの準備もしようとしていたのですが、

いつのまにかその話はなくなってしまう。残念でしたが「今はご時節ではないと神様が仰っているのか」と思い直し、そのまま犬不在で二年が過ぎました。

そしてこの四月のある日、「狐を追い払うため犬を飼っているが、増えすぎたので貰<sup>もら</sup>ってほしい」という農家さんがいる」と連絡をいただきました。

それからあれよあれよという間に話が進み、最初の連絡をいただいてから三時間後には一匹の子犬が我が家の末っ子として迎え入れられていたのです。

成り行きを見ていて「これがご時節だな」と思うと共に、我が家にご縁があったてやってきたということ、この犬にも神様から差し向けられた役割があり、飼い

主にはその役割に応える義務があるのだと改めて思わせていただいております。  
(玉置)

平成 29 年度 道東地区教会連合会交流会・研修会  
 日 時 平成 29 年 7 月 8 日 (土) ~ 9 日 (日)  
 会 場 滝上教会・滝上町童話交流プラザ  
 内 容 8 日 (土) : 滝上開拓団の業績をたどるツアーと懇親会  
 9 日 (日) : 研修会「神人あいよかけよの生活運動」地区集会  
 ※詳細については後日あらためてご案内いたします。

行事報告

▼平成 29 年度総会・委員懇談会

・日 時 平成 29 年 3 月 26 日 10 時 30 分から 14 時

・会 場 網走教会

・出席者 15 名

・内 容 連合会役員人事について

平成 28 年度活動報告、会計報告。平成 29 年度

活動計画、予算について

・委員懇談会 「これからの連合会」

これからの連合会活動、研修内容などの参考にす  
 るため、付箋を使い教会や金光教についてそれぞれ  
 の意見の集約を行いました。

▼平成 29 年度連合会研修会・「運動」道東地

区集会企画会

・日時会場 総会終了後、網走教会にて

・出席者 8 名

・内 容 研修会の内容について

※集会テーマ「開拓の原点 助け合い

の心 そしてここからの信心」

※内容案 石巻教会長・井上直文先生

の東日本大震災避難生活の体験談(録

画) 視聴と簡単な懇談



道東地区教会連合会ホームページ  
 (PC 用)  
<http://kontoka.webcrow.jp/doto>